

The effects of word length and word familiarity on vocabulary learning

journal or publication title	Bulletin of the Institute of Foreign Language Education Kurume University
volume	22
page range	63-77
year	2015-03-31
URL	http://hdl.handle.net/11316/337

語彙学習における語彙の長さ と 親密度の影響

河内 千栄子

本論文は、英語学習者の語彙知識が語彙の長さや親密度とどのように関係し、また、学習する際にこれらの要因がどのように影響するかについて調べたものである。まず、英語頻度3,000語レベルの語彙の中から20語の長い語彙項目(9~11文字)および短い語彙項目(3~4文字)を選択し、学習者の受容語彙知識(英語から日本語に訳す)、産出語彙知識(日本語から英語に訳す)、および親密度を測定する事前テストを学期初めに実施した。また学習者は、対象語彙を含む500語を13週間にわたって課外CALL学習することが求められ、学期末に事後テストを実施した。事前テストの結果を見ると、長い語の産出語彙知識はそれらの受容語彙知識よりも高く、その差は有意であったが、短い語では産出、受容語彙知識に有意な差がみられなかった。また、長い語の産出は短い語より有意に高いことがわかった。さらに親密度を見ると、学習者は長い語のほうが短い語より親密の程度をより高く感じており、その差は有意であることが判明した。CALL学習後の事後テストの結果を見ると、短い語が大きく伸び、産出、受容語彙知識ともに長い語との差が有意ではなくなった。語彙親密度も増加したが、長い語は事前テストと同様に短い語よりも親密度が高く、その差は有意であった。また、事後テストでは長い語の親密度は受容・産出語彙の両方と相関が高いことがわかった。このことから、短い語に比べて、学習することで長い語のほうが、見聞きする程度と受容・産出の語彙知識のつながりが強くなることが考えられる。一方、短い語では学習効果は非常に高いが、事前テストの結果に見られるように、容易に忘れられることが示唆される。これらの結果から、短い語彙の習得を促すためには、より工夫ある語彙指導が求められる。